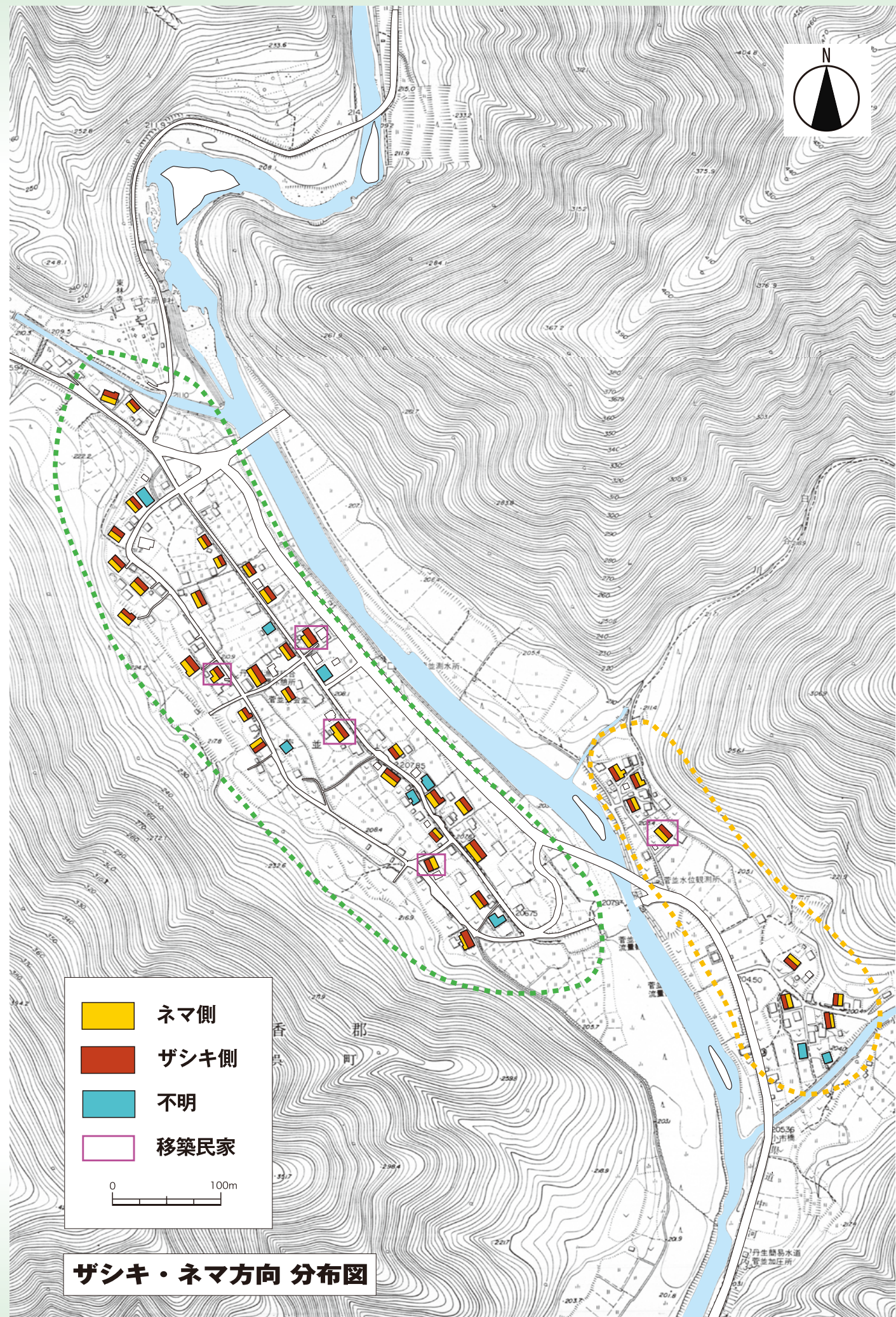




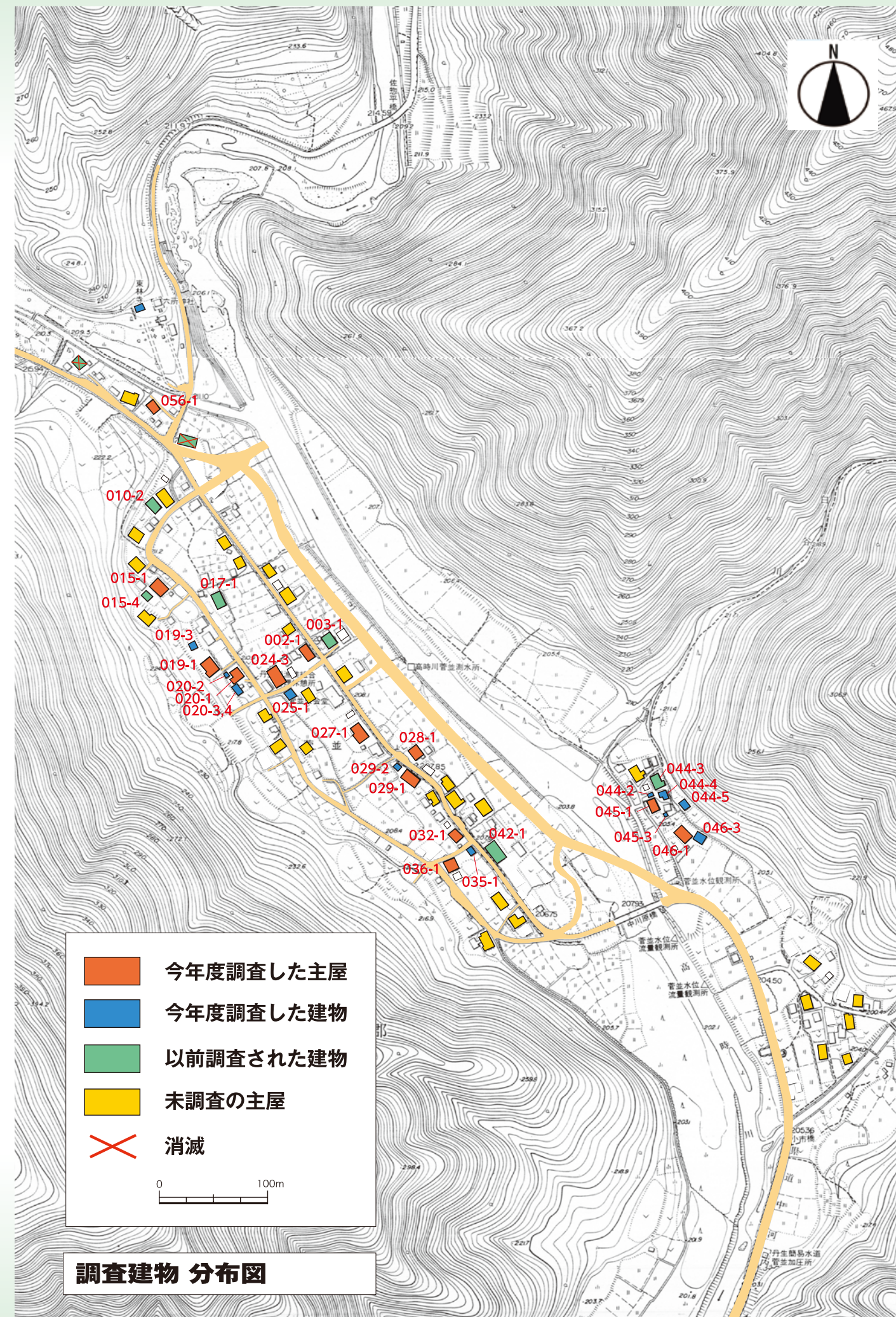
令和3（2021）年3月
菅並集落伝統的建造物群保存対策調査 概報

制作：滋賀県立大学人間文化学部地域文化学科 石川慎治
編集：長浜市市民協働部歴史遺産課
発行：長浜市
発行所：谷口印刷株式会社



長浜市余呉町 菅並集落 伝統的建造物群 保存対策調査 概報

2021.3
長浜市・滋賀県立大学



■ 概 要

長浜市余呉町菅並集落には、多くの茅葺民家が現存している。現在は全てトタンでおおわれているものの、全国的にこれほどの規模で茅葺民家が残る集落は少なく貴重である。

それらは、かつて湖北地方で多く見られた「余呉型民家」と呼ばれる民家であり、入母屋造・妻入り・サス組みの屋根、ニワ（土間）・ダイドコ（土座）・ザシキ・ネマからなる三間取広間型の間取りを持つ。ニワとダイドコにかかる十字に組んだ梁の架構も特徴的である。なお、土座を持つ民家は、寒冷地に多くみられたが、その名残を残す民家は全国でも少なくなっている。

また、敷地は主屋・土蔵・隠居屋・田畑で成り、余呉町内でも菅並集落は伝統的な景観をよく残している地域である。

■ 伝統的建造物群保存対策調査

貴重な建造物と独特の景観を伝える菅並集落だが、山間部に位置することもあり、近年集落を離れる人や少子高齢化が進み、集落自体の存続が危機的な状況にあり、空き家となった民家の解体や放置が進んだ状態である。そこで、全国的に希少な集落の価値を再確認し、それらを活かしたまちづくりを行うことで、将来的な集落の維持を行うことが必要である。この事業では、令和2年度から4年度にかけて文化庁の補助金を得て、菅並地域の民家や集落の歴史・民俗・環境を把握するため、伝統的建造物群保存対策調査を実施する。調査においては、長浜市歴史遺産課の委託のもと滋賀県立大学が担当した。民俗調査や歴史調査においては、共同調査を実施した。

【調査担当者】 ①建造物調査 滋賀県立大学環境科学部 高田豊文 教授 / 高屋麻里子 講師
滋賀県立大学人間文化学部 濱崎一志 元教授 / 石川慎治 教授
②民俗調査 滋賀県立大学人間文化学部 市川秀之 教授
③歴史調査 滋賀県立大学人間文化学部 東 幸代 教授

① 建造物調査

菅並の建造物（主に民家）についての記録を行った。途中段階ではあるが、集落内における余呉型民家（主屋）の変遷や、集落内における主屋の間取りの法則を考察した。また、かつて茅葺だった隠居屋の存在を明らかにし、余呉型民家（主屋）との構造的な共通性を指摘した。

● 実測調査（建物）（P2.「ザシキ・ネマ方向 分布図」、P4.「一覧表」）

- ◆主屋13棟、土蔵5棟、隠居屋3棟、その他5棟、の実測調査を実施した。
- 〈主 屋〉
 - 現段階での編年表（案）を作成した（P5.「主屋平面の編年表（案）」「主屋断面の編年表（案）」）。
 - 標準的な主屋は、茅葺・入母屋造・妻入り・南入口・広間型三間取り・上屋梁の幅2間半・縁側なし・屋根勾配は約50度、である。
 - 上屋梁の幅が3間になると、主屋は奥行方向に大きくなる傾向がある。
 - ネマ・ザシキ境の柱や半間壁は、古式と思われる。
 - ダイドコとニワの上に、十字梁がかかっている。
- 〈隠居屋〉
 - 二間取りが標準であったと考えられる。
 - 茅葺の隠居屋は、主屋と同じで十字梁を用いた構造をとっていた。ただし、現在は「合掌崩し」をした隠居屋が多い。

● 集落空間調査

- ◆GISによる調査成果の入力作業を行った。

● 集落調査（P2.「ザシキ・ネマ方向 分布図」）

- ◆景観構成要素の分布図（建物種別、主屋屋根の形・形態、など）を作成した。
- 主屋のザシキ・ネマ方向については、ザシキ：川側、ネマ：山側、にした部屋配置がほとんどであった。
- 上記の原則に当てはまらないものもあるが、そのような主屋は移築された可能性あり。
- ◆「建物調査台帳」（昭和26年前、昭和26年）を整理し、データ入力を行った。
- 建物の建築年代の特定、景観復原（屋敷内の建物、屋根素材）が期待できる（P4.「建物一覧表」）。

● 構造・防災調査

- ◆主屋2棟を調査した。

② 民俗調査

菅並の生活文化についての記録を行った。『社会組織、生業、交通・交易、住生活、食生活、社寺と祭祀組織、ムラの年中行事、家の年中行事、山と峠、災害、人生儀礼』について聞き取り調査等を行い、建造物と菅並集落の環境等が地域的な特色を顕していることを確認中。

③ 歴史調査

菅並の古文書（主に、集落景観や建物に関するもの）の目録を作成した。

調査対象の古文書の読解を通じて、菅並地区には江戸時代から大規模な雪害があったことや、神社などの屋根葺き替えや改築の年代などが判明した。なお、特筆すべきこととして、『建物調査台帳』など、地区内の景観復元に益する史料が発見されたことがあげられる。

【古文書調査】 自治会文書 123点 / 個人所蔵文書 76点

建物一覧表

主屋※1	建築年代※2	当初の間取り	上屋の梁間幅	縁側※4	付樋端	大黒柱の 一辺の長さ(mm)	ネマ・ザシキ 境の半間壁	ネマ・ザシキ 境の柱の省略
△003-1	18C前期 (1)	広間型三間取	3間	×	○	不明	○(全面壁)	×
△消滅①	18C中期 (1)	広間型三間取	2間半	×	不明	不明	×	○
045-1	18C中期 (1)	広間型三間取	2間半	×	○	不明(八角柱)	○	×
010-2	18C中期 (1)	広間型三間取	2間半	×	不明	不明	×	○
消滅②	18C中期 (1)	広間型三間取	2間半	×	不明	不明	×	○
029-1	18C中期 (1)	広間型三間取+α	3間	●	○	220	○	×
△020-1	18C中期 (1)	広間型三間取	2間半	●	○	240	×	○
056-1	18C後期 (1)	広間型三間取	2間半	×	○	230	○	×
002-1	18C後期 (1)	広間型三間取	2間半	●	×	240	○	×
019-1	不明※3(18C後期~19C前期)	広間型三間取	3間	×	○	240	×	○
032-1	19C前期 (1)	広間型三間取	2間半	●	○	250	○	×
044-3	19C前期 (1)	広間型三間取	2間半	●	○	250	×	○
028-1	19C前期 (1)	広間型三間取	2間半	●	×	240	×	○
△027-1	19C前期 (1)	広間型三間取+α	3間	●	○	325	×	○
015-1	19C中期 (1)	広間型三間取	2間半	×	○	280	×	○
024-3	明治2年 (2)	広間型三間取	2間半	○	×	290	×	○
△036-1	明治5年 (1)	広間型三間取	2間半	×	×	300	×	○
042-1	明治18年 (1)	広間型五間取	3間	○	不明	不明	×	○
017-1	明治20年 (1)	広間型三間取	2間半	●	不明	不明	×	○
△046-1	昭和5年 (1)	広間型三間取	2間半	○	×	330	×	○

隠居屋※1	建築年代※2	当初の間取り	上屋の梁間幅	縁側※4	屋根材	屋根材 (昭和26年)
025-1			3間		トタン葺	
035-1	18C前期 (1)	二間取	2間	×	瓦葺	茅葺
044-5	不明	二間取	2間半	×	瓦葺	茅葺

土蔵※1	建築年代※2	平面規模 (梁間×桁行)	平・妻	屋根形式	壁仕上げ	屋根材	屋根材 (昭和26年)
020-3	18C中期 (1)	2間×2間半	平入り	置屋根	中塗	瓦葺	茅葺
019-3	18C中期 (1)	2間×2間半	平入り	置屋根	中塗	瓦葺	杉皮葺
015-4	19C前期 (1)	2間×3間	妻入り	置屋根	中塗	トタン被茅葺	茅葺
046-3	19C前期 (1)	2間×2間半	平入り	置屋根	漆喰	瓦葺	杉皮葺
044-4	19C中期 (1)	2間×3間	妻入り	置屋根	中塗	瓦葺	瓦葺
029-2	19C中期 (1)	2間×2間半	妻入り	置屋根	漆喰	瓦葺	瓦葺

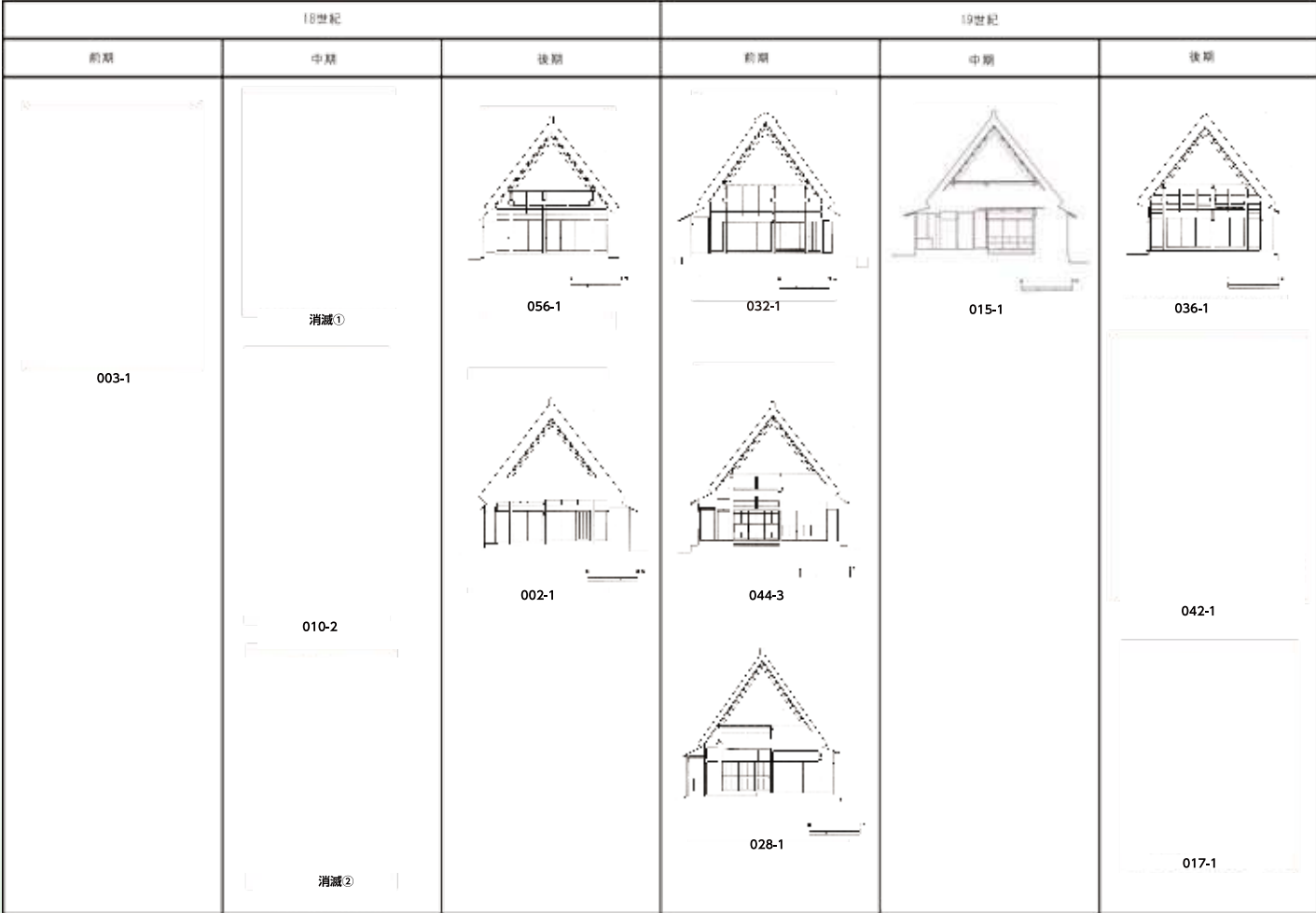
※1 P1調査建物分布図と対応する。△は移築したものを示す。
※2 建築年代について (1)「家屋調査台帳」(昭和26年)から判断 (2)聞き取りなどから判断
※3 019-1の建築年代は今回の分類の結果から推定したものである。
※4 ×縁側なし ●建築当初に縁側なし、現在は縁側あり ○建築当初に縁側あり

主屋平面の編年表（案）



※ 003-1、010-2、017-1、042-1、消滅①、消滅②は、「高浜川ダム建設地域民俗文化財調査報告書」（1991年）より転載

主屋断面の編年表（案）



菅並の一般的な家の構造

